

CONTENTS

- 2 経営支援事例発表 岐阜県大会
大規模災害発生時における支援に関する協定締結
- 3 小さな会社の「知財まさか！」防止塾
- 4 未来を応援 / 最低賃金改正

第756号

令和8年10月1日発行
(毎月1日発行 発行部数18,950部)

元気企業紹介

伝統の「本建て正藍染」を未来へつなぐ

あいわゆう

「藍」通じて、人と自然のつながりを伝えたい

私は池田町で「本建て正藍染」による衣服や雑貨の製造・販売、藍染め体験などを行う「あいわゆう」を営んでいます。

本建て正藍染は、藍の葉を発酵させた「すくも」と木灰から取った灰汁を使い、微生物の働きによって染め液をつくる、日本古来の伝統的な藍染技法です。藍染めは単に布を青く染める作業ではなく、藍の中で生きる微生物の営みに寄り添い、自然と向き合いながら染めることを大切にしています。

「あいわゆう」という名前には、藍、人と自然の調和、そして人がつながる「邑（むら）」への想いを込めました。伝統の技術や先人の知恵を守りながら、現代を生きる人たちにも藍の魅力を伝え、未来へつないでいきたいと考えています。

商工会への相談から、事業の次の一步へ

創業当初、事業に必要な藍甕などの設備を整えるため、池田町商工会へ相談しました。商工会から日本政策金融公庫の創業融資の話を聞き、一緒に創業計画書策定に取り組み、融資を申請し、必要な設備を導入することができました。その後も事業を続ける中で、商品の販売だけでなく、ブランドとしての価値を高めることや、将来的な事業の方向性について考えるようになり

ました。

そこで商工会の経営指導員さんと一緒に経営計画を作成し、「自分自身の考え」や「事業の強み」「今後取り組むべき課題」等を整理しました。さらに、その計画を実現する手段として「岐阜県中小・小規模事業者パワーアップ応援補助金」についても提案していただき、申請書の作成も支援していただきました。



代表者

藍染めを「体験できる場所」へ

現在は、採択された「岐阜県中小・小規模事業者パワーアップ応援補助金」を活用し、ギャラリーとアトリエの整備を進めています。



藍染め体験

これまで以上に商品をじっくり見ていただける場所をつくるとともに、藍染め体験を通して、本建て正藍染の魅力やものづくりの背景を直接感じてもらえる環境を整えていきます。現在も本建て正藍染体験や正藍絞り染

め体験を行っており、自分の手で世界に一つの藍染めをつくる時間を提供しています。

これからも、伝統をそのまま残すだけではなく、現代の暮らしや感性に合わせた新しい藍の魅力を提案しながら、「あいわゆう」の活動を通じて、藍と人、人と自然のつながりを未来へ伝えていきたいです。

(所属 池田町商工会)

あいわゆう

代表 野原 和也

■ 揖斐郡池田町般若畑270-1
☎ 070-1626-5137



Instagram



HP



発行所・発行人

岐阜県商工会連合会

岐阜市藪田南5丁目14の53 OKBふれあい会館9F

商工ニュース 読者アンケート

ご協力ください。ご意見ご要望もこちらまで。



経営支援事例発表 岐阜県大会にて

三木 峻介 経営指導員(古川町商工会)が最優秀賞に！

岐阜県商工会連合会並びに岐阜県商工会職員協議会の主催により、9月4日に経営支援事例発表岐阜県大会が羽島市の不二羽島文化センターにて開催されました。

この大会は、商工会職員が持つ経営支援ノウハウ・経験の共有化、経営指導員等のモチベーションの向上及び商工会の事業者支援実績を内外にアピールすること等を目的に開催しているものです。

本大会では、県内各ブロックを代表する5名の経営指導員が発表を行いました。その結果、最優秀賞には古川町商工会の三木峻介経営指導員が選ばれました。

発表テーマは「『もう辞めよう』から始まった逆転劇～廃業危機を乗り越えた伴走支援～」。コロナ禍で苦境に立たされた飲食業を営む事業者に対して、丁寧なヒアリングを行い、建設関係の仕事で培った現場経験と資格を活かした新事業への挑戦を提案。事業計画の策定から資金調達、販路開拓のサポートまで一貫した伴走支援の取組について発表。その丁寧かつ的確な支援内容が高く評価され、見事に最優秀賞を受賞しました。

三木峻介経営指導員は、10月5日富山市で開催される経営支援事例発表中部ブロック大会に岐阜県代表として出場されます。三木峻介経営指導員の健闘をお祈りします。



発表された皆様



三木峻介経営指導員

結果

- 最優秀賞 三木 峻介
古川町商工会
- 優秀賞 山下 亮一
海津市商工会
- 優良賞 木俣 康太
本巣市商工会
- (※順不同) 安江 輝竜
関市東商工会
- 中島 亜結子
中津川北商工会

また、同日に開催された職員研修会では、全国商工会連合会の佐藤邦彦氏、最能健太氏が講師となり「中央情勢から考える商工会の役割」をテーマに講演を行いました。講演では、商工会における経営支援領域は拡大を続けており、相談ニーズも情報提供からコンサルティング型の個社の実情に応じた伴走型の支援が求められる中で、商工会組織として支援体制を強化するために、必要な取組や要望・提言活動の意義について学びました。商工会組織と地域の事業者の発展に必要な行動とは何か考える有意義な研修会となりました。



職員研修会(全国商工会連合会 佐藤氏・最能氏)

大規模災害発生時における支援に関する協定締結



岐阜県商工会連合会は、8月24日(月)総務省岐阜行政監視行政相談センターおよび岐阜行政相談委員協議会との間で「災害時施設供与協定」を締結いたしました。

本協定は、激甚化する自然災害に対し地域の防災力向上が求められる中、県内42の商工会館の一部を、災害時の行政相談や復興サポートの拠点として供与するもので、全国47の商工会連合会で初となる試みです。

調印締結式当日は、担当者による協定概要の説明からスタート。続いて各代表者(当連合会・坂井田会長、同センター・加藤所長、同協議会・小倉会長)より地域防災への決意が語られた後、協定書への署名・披露が行われました。その後、記念撮影や記者との質疑応答を経て、無事閉式いたしました。

本協定は単なるスペース提供にとどまらず、平時より取り組んできた会員事業者のBCP(事業継続計画)策定支援や行政との連携網を結集し、被災直後から早期復旧を支える「総合相談窓口」として機能させるものです。今後も県連合会は、地域社会の安全と経済基盤を守るため、実効性の高い支援体制の構築に貢献してまいります。

小さな会社の “知財まさか!”防止塾

人ごとではない知財のまさか! 池田先生から実例を交え、トラブル回避の処方箋を全10回で紹介頂きます。

第4回

商品開発の“まさか!”

商品が“真似された日／真似していた日”
開発の現場に潜む“まさか!”

MAI国際知的財産事務所
所長弁理士 池田 抄太郎



※本文は実際の相談事例をもとにアレンジしています。

■「うちの商品がそっくり…」——Cさんの胸騒ぎ

東濃で木工雑貨を製造・販売するCさんは、地元材を使った温かみのあるキッチンツールを得意としていました。ある日、常連のお客様から「これ、新作ですよね?」とネットショップの画像を見せられます。

画面に映っていたのは、Cさんの新作商品「ひだまりスプーン」にそっくりな形のスプーン。しかし販売しているのは全く知らない業者でした。

「まさか…うちの商品が真似されてる?」

胸騒ぎがして調べてみると、形状もサイズもほぼ同じ。しかもその業者はCさんより安く大量販売しており、売上は目に見えて落ち始めました。不安を抱えたCさんは、急いで相談に来られました。

■「実は…うちが真似していた?」

——もう一つの“まさか!”

さらに調査を進めると、もう一つの事実が判明します。Cさんが「自分で考えた」と思っていた形状は、数年前に別メーカーが意匠登録していたデザインとよく似ていたのです。

「え…もしかして、うちが真似していた側…?」

もちろんCさんに悪意はありません。しかし世の中には似た商品が無数にあり、“真似された”と“真似していた”が紙一重で入れ替わるのが商品開発の怖いところです。

■特許・意匠は“小さな会社こそ効く”理由

ここで重要なのは、商品のデザイン(見た目)は意匠権、構造や仕組みなどの技術的な工夫は特許で守れる可能性があるという点です。



例えば木工雑貨の世界でも、

- ・持ち手の特徴的なデザイン(意匠)
- ・使いやすさを生む内部構造(特許)
- ・組み立て方法の工夫(特許) など、小さな改善が権利として保護される場合があります。

「特許(意匠)なんて大企業のもの」と思われがちですが、実は逆。小規模事業者ほど、日々の試行錯誤から生まれる“ちょっとした工夫”が出願・登録することで初めて権利として守られる可能性があります。

特許や意匠は真似されたときの権利行使を主張する根拠となるだけでなく、事前調査をする過程で、知らずに他人の権利を侵害するリスクも減らせます。

■「先に調べる」だけで防げるトラブルが多い

Cさんの場合、開発前に

- ・先行意匠の簡易検索
 - ・類似商品のチェック
 - ・特許の有無の確認
- をしていれば、「真似された／真似していた」の両方のリスクを大きく減らせた可能性があります。

特許庁のJ-PlatPatを使えば、公開されている特許や登録意匠などの検索ができるため、商品開発の初期段階で“ざっくり調べる”だけでも大きな違いが出ます。

■「商品は財産」——小さな工夫こそ守るべき理由

商品は、あなたの会社の“顔”であり、信用そのものです。特に、形そのもののデザイン(意匠)や、使いやすさを生む仕組み・構造(特許)が価値につながる分野では、“見た目のデザインは意匠で、技術的なアイデアは特許で守る”という両面の意識が欠かせません。

だからこそ、①開発前に調べる ②守れるものは守る ③怪しいと感じたら相談する この3つを習慣にするだけで、“商品開発のまさか!”は大幅に減らせます。

これら①から③を自力で行うことが難しければ、知り合いの弁理士や商工会の専門家派遣を上手に活用しましょう。

次回は、ネット時代に急増している「画像・文章の無断使用」の“まさか!”。SNSやHPの“うっかり投稿”が、思わぬトラブルに発展することがあります。

未来を応援

株式会社クリエイティブファーマーズ (石川農園、KOKOKOバウムクーヘン)

■農業のプロが挑む、栽培から製造・販売までの一貫体制

恵那市上矢作町でトマトやいちごを栽培し、人気のいちご狩り農園も運営する株式会社クリエイティブファーマーズ。「ぎふ清流GAP認定」に基づく品質管理のもと、安心安全な農作物を生産しています。2023年に「6次産業化事業計画」の認定を受け、地元の食材や自社農産物を活かした、こだわりの「玄米米粉バウムクーヘン」製造で新事業への参入を決意。事業再構築補助金を活用し、2024年に最新工場を敷地内に新設しました。



トマト



店舗外観

■工場稼働後の予想外の苦戦と、販路開拓という新たな壁



商品棚

栽培から製造・販売まで一貫して手がける体制を整えた同社。しかし、稼働後に直面したのは「想像していたような売上が立たない」という厳しい現実でした。地元の食材を使った自慢の玄米米粉バウムクーヘンですが、知名度不足により店頭や催事での販売拡大に苦戦。販路開拓や消費者ニーズを掴むための効果的な手法を見出せずにいました。

■組織一丸となった物産展や大規模展示会への挑戦

この窮地に対し、商工会はいくつかの販路開拓支援

農業の力を商品に、商工会と挑む 販路開拓の道



玄米米粉バウムクーヘン(スイートポテト)

を提案しました。まず、知名度向上と実績作りのため、イオンモールでの物産展実施や、全国商工会連合会主催のニッポン全国物産展への出展支援を行いました。さらに販路を全国へ広げるため、FOOD STYLE JAPAN 中部や第40回グルメショー秋2026といった大規模展示会への出展を支援し、商工会全体でサポートしました。また、新たな販路開拓に向けて岐阜テロワールアカデミーに参加して、商品のテストマーケティングを実施しました。

■認知の広がりを売上に結びつける、未来への伴走支援

こうした一連の支援により、「地元の食材を使った玄米米粉バウムクーヘン」としての魅力が少しずつ消費者に伝わり、認知度は向上し始めています。さらに、同アカデミーへの参加を通じて、首都圏で展開するバイヤーとの貴重なつながりを持つことができました。しかし、売上向上にはまだ課題があり、本当の挑戦はこれからです。今後は、展示会等で得られたバイヤー等の声を商品改良やアプローチ手法に活かし、着実な売上増へと結びつけられるよう、事業者様の「未来を応援」する支援を、商工会が一丸となって今後も強力に継続してまいります。(所属 恵那市恵南商工会)

株式会社クリエイティブ ファーマーズ

石川農園

恵那市上矢作町 4240

080-2667-6269

KOKOKOバウムクーヘン

恵那市上矢作町下 712-3

0573-38-0166

石川農園
Instagram



@SHIKAWATOMATOFARM



@KOKOKO_KAMIYAHAGI

最低賃金が改正されました!

岐阜県最低賃金

時間額 **1,121 円**

56 円
アップ

発効日 令和8年10月1日

年齢に関係なく、パートや学生アルバイトなどを含め、県内で働くすべての労働者に適用されます。



- 詳しくは、岐阜労働局賃金室 ☎058-245-8104又はお近くの労働基準監督署までお尋ねください。
- 従業員への賃上げにお困りの会員の皆様は、最寄りの商工会にご相談ください。

